

2018年5月11日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 作本 直行

インド国トゥルガ揚水発電所建設事業
(協力準備調査(有償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2018年4月27日(金) 14:01~16:52
- ・場所：JICA本部(1階111会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、村山委員、米田委員
- ・議題：インド国トゥルガ揚水発電所建設事業(協力準備調査(有償))ドラフトファイナルレポートに係る助言案作成
- ・配布資料：
 - ・ インド国トゥルガ揚水発電所建設事業準備調査ドラフトファイナルレポート
 - ・ Environmental Impact Assessment (EIA) of Turga Pumped Storage Project
 - ・ EIA Volume-III: EMP Report
 - ・ スコーピング案及び最終報告書案への助言対応表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第90回委員会)

- ・日時：2018年5月11日(金) 14:30~16:48
- ・場所：JICA市ヶ谷ビル(202A・B会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 既存のプルリア揚水発電所の工事中・操業時の正負の影響を、特に負の影響に留意して整理し、FRに記述すること。

環境配慮

2. 建設残土の廃棄予定場所における盛土の安定性について、FRに記述すること。
3. アジアゾウの季節移動に伴う対応に関して提案されているステークホルダー委員会の構成や任務を明確化したうえで、FRに記述すること。
4. アジアゾウの生態や生息状況を地域レベルで把握している研究者または専門家を、実施機関またはステークホルダー委員会等の助言者とするよう、必要性を明記の上FRで提案すること。
5. アジアゾウを含めた野生動物との接触被害や家屋・農地への物理的被害を防ぐために Divisional Forest Officer (DFO：森林区管理官) が地域住民に周知している対策を Range Officer (広域森林官) から工事・運営関係者へ施工前に指導する際に、同時にアジアゾウの希少種としての保全の重要性も含めて説明するよう、FRに記述すること。生態系への影響評価において、森林伐採による影響についても検討し、FRに記述すること。
6. 補償植林に関して、次の点を検討したうえで、FRに記述すること。
 - ・ 植林が予定されている地理的な位置と現在の状況
 - ・ 植樹が予定される樹種の選定方法
 - ・ 本プロジェクトの実施によって喪失する樹林地と新たに創出される補償植林に対して想定される炭素吸収量の比較検討
7. 補償植林に関して、新たな植生が定着するのに、年2回のモニタリングで十分か改めて検討し、その結果をFRに記述すること。

社会配慮

8. 非正規に農耕活動を行っている住民に対し、JICAガイドラインに基づき、適切な補償を行う旨、FRに記述すること。

以上